

平成28年度事業計画書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

当財団は、平成27年度から平成31年度まで、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館の管理運営に係る指定管理者の指定を受け、公共劇場の使命を果たすとともに、高い評価を得た数多くの舞台芸術作品の提供や、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を継続的に実施している。さらには、地域の核としての賑わいを創出する事業の実施や経営に関する様々な改革にも取り組んでいる。

平成28年度においては、これまで培ってきた実績と経験を最大限に活用しながら、県内における芸術文化の一層の振興と、真に豊かさゆとりを実感できる県民生活の実現のため、引き続き次の目標を掲げ事業に取り組んでいくこととする。

(1) 埼玉から国内外に向けた芸術文化の創造と発信

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や「さいたまゴールド・シアター」、「さいたまネクスト・シアター」など、公共劇場ならではの埼玉独自の取り組みを行い、埼玉から国内外に向けて新たな芸術文化の創造、発信を行っていく。

(2) 県立文化施設独自の事業展開

彩の国さいたま芸術劇場において、芸術性の高い特色ある事業を行うとともに、様々なネットワークを駆使した全県的な視野を持った事業に取り組んでいく。また、作品の制作過程を通じて若手人材の育成に取り組むほか、人々の心に恵沢をもたらす感動体験や本物体験を様々な形で提供していくなど、県立文化施設が果たすべき役割に積極的に取り組んでいく。

なお、埼玉会館は大規模改修工事に伴い休館中であるが、平成29年度のリニューアルオープンに向けた準備を行っていく。

(3) 地域の核として賑わいの創出

各施設で地域の特性に合ったプログラムを行うとともに、さいたま市や地域の事業体、地域の方々と連携した取り組みを行うことで、地域の核として賑わいを創出していく。

平成28年度は、9月から12月にかけて開催される「さいたまトリエンナーレ2016」において、彩の国さいたま芸術劇場施設内での美術作品展示などの連携を図っていく。

1 舞台芸術作品の提供等に関する事業

(1) 自主企画公演等及び国内外との交流（52事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供していく。

ア 演劇部門

蜷川幸雄芸術監督の演出による多彩なラインナップを展開する。

当劇場の看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、5月に第32弾として喜劇「尺には尺を」を上演。また10月には、シリーズ番外編NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND第3弾「ハムレット」を上演する。昨年上演した第30弾「リチャード二世」は、クライオーヴァ国際シェイクスピア・フェスティバルの招聘を受け、4月にルーマニアで上演する。

1月には蜷川芸術監督の代表作にして現代日本演劇の金字塔である「近松心中物語」をオリジナル演出で上演する。

児童・青少年向けの演劇作品として「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」との連携により海外の児童劇を招聘、あらゆる世代が鑑賞できる機会を設ける。

その他、注目の若手演劇人である藤田貴大の作・演出によるプロジェクトを立ち上げる。

なお、「松竹大歌舞伎」は、平成27年度に引き続き（公財）熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷市文化創造館さくらめいとで実施する。

事業名	実施予定時期	会場
「リチャード二世」ルーマニア公演	4月	ルーマニアクライオーヴァ
彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾「尺には尺を」	5月	大ホール
松竹大歌舞伎	7月	熊谷市文化創造館さくらめいと
児童演劇公演	8月	小ホール
オックスフォード大学演劇協会公演	8月	小ホール
藤田貴大ワークショップ	8月～9月	大練習室
NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND 3「ハムレット」	10月	大ホール
近松心中物語	1月	大ホール

イ 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作や国内外で活躍するアーティストによる、多彩な身体表現の可能性を探る作品を提供する。

主催公演として、国内からは、今年結成20周年を迎え、ますます意欲的な活動を展開するとともに、埼玉では10回目の登場となる近藤良平が率いる人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による埼玉だけの新作公演を上演する。

海外からは、2016年1月に英国ナショナル・ダンス・アワードで特別賞を受賞したフラメンコ界の寵児イスラエル・ガルバンと、2012年ロンドン五輪開会式でダンス・パートを振付・出演するなど、今や英国を代表する振付家となったアグラム・カーンによる注目のデュオ作品「TOROBAKA」の初来日公演を行う。10月には、1992年アルベールビル冬季五輪の伝説的な開会式を振付したフランスを代表する世界的アーティスト、振付家、演出家であるフィリップ・ドゥクフレの最新作「Contact」（2014年初演の日本初来日作品）を上演する。

また、12月には平成18年度より当劇場で企画・製作し、その後も新作を発表しながら継続的に実施している「日本昔ばなしのダンス」を海外の劇場において上演し、3月には平成25年に大きな反響を呼んだ来日公演が記憶に新しいダンス界の巨人ピナ・バウシュが率いたヴッパタール舞踊団を招聘し、1980年代の代表作「NELKEN（カーネーション）」を上演する。

このほか、平成26年度より実施している振付家、ダンサーの岩淵多喜子による、県内中学校の生徒を対象にしたダンス・ワークショップを引き続き実施する。

事業名	実施予定時期	会場
イスラエル・ガルバン&アグラム・カーン『TOROBAKA』	5月	大ホール
コンドルズ埼玉公演 2016 新作公演	6月	大ホール
フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA 『Contact』	10月	大ホール
日本昔ばなしのダンス 海外公演	12月	ニューヨーク
ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団『Nelken（カーネーション）』	3月	大ホール
ミート・ザ・ダンス(岩淵多喜子 WS)	未定	県内中学校

ウ 音楽部門

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施する。また、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開する。

注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって展開する劇場オリジナル企画「現在（いま）」シリーズは、ヴァイオリンの佐藤俊介による公演の最終回として、作曲当時の奏法を踏まえて、1910年代から1930年代にかけてのクラリネット、ヴァイオリン、ピアノによる室内楽を取り上げる。

また、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」、同シリーズの「アンコール！」公演及びリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」を継続して開催する。

加えて、最高級の演奏を鑑賞する機会だけでなく、トップ・アーティストからの学びの場も提供する。世界屈指のピアニスト、アンドラーシュ・シフを初めて劇場に招聘するほか、2013年にバッハの無伴奏作品全曲演奏で当劇場音楽ホールを高く評価したイザベル・ファウストが当劇場での公演を望んだ名手ベザイデンホウトとのバッハ・プログラム、スター奏者による夢のアンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」の公演及び公開リハーサルを実施する。なお、共催として、埼玉県在住で日本を代表するピアノ・デュオ「ドゥオール」によるピアノ・デュオ・セミナーを初めて開催するほか、世界で活躍する打楽器奏者、加藤訓子による映像と音響によるインスタレーションから生演奏へと移行する意欲的な公演を共催する。

ますます国際的に活躍の場を広げるバッハ・コレギウム・ジャパンによる毎年度恒例の彩の国さいたま芸術劇場公演では、15年ぶりとなるバッハの大作《ミサ曲 口短調》を上演する。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」を継続し、オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」も、若手講師にも加入してもらい、好評のレクチャーを年2回に増やすなど、質量ともに充実させる。

また、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も、内容の充実をはかりながら引き続き実施する。

事業名	実施予定時期	会場
次代へ伝えたい名曲(第7回～第9回)	5月～3月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6	7月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.29～Vol.31)	9月～1月	音楽ホール
イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト デュオ・リサイタル	10月	音楽ホール
レ・ヴァン・フランセ(公開リハーサルも開催予定)	10月	音楽ホール
NHK交響楽団 12人のチェリストたち	11月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《ミサ曲 短調》	11月	音楽ホール
佐藤俊介の現在(いま) Vol.3	2月	音楽ホール
アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小・中学校
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー【共催】	8月～9月	音楽ホール他
加藤訓子 Project IX - PLEIADES【共催】	10月	小ホール

エ その他

好評の「彩の国さいたま寄席」(年4回実施)を引き続き実施する。また、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」も引き続き開催する。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップを積極的に受け入れるなどして、地域との連携を深めていく。

事業名	実施予定時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	8月	大ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
舞台技術講座	未定	小ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	未定	埼玉大学他

(2) 企画展示・広報等

ア 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ガレリア等を活用し、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」など財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催する。

イ 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

会員の方々に財団の主催する公演や活動内容を詳しく紹介するとともに、新たな会員の拡大とチケットの販売促進に効果を上げることを目的に、情報誌を発行する。

(ア) 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行

(イ) 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

ウ メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行うことにより、顧客の定着化とチケットの販売促進を図る。

会員数 5,476人(平成28年2月末現在)

エ サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図る。

サポーター会員数 118社(者)(平成28年2月末現在)

(3) 2020年東京五輪文化プログラム

東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムへの参加を見据えた県委託文化事業「1万人のゴールド・シアター2016」を制作、上演する。蜷川幸雄芸術監督総合演出による、公募で選ばれた65歳以上の高齢者が出演する大群集劇で、12月に県内大型施設で上演を行う。

2 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設貸与を行っていく。

(1) 彩の国さいたま芸術劇場

施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者サービスの向上に努めるほか、施設の空き情報の提供など積極的な働き掛けを行い、利用率の向上に努める。

また、ウェブサイトを活用し、わかりやすく充実した利用案内や迅速な施設利用情報の提供、公演チラシ掲載による貸館公演の広報支援など、利用者サービスの充実を図る。

(2) 埼玉会館

平成28年度は、大規模改修工事に伴い休館中であるが、平成29年度分の施設利用受付が始まる。リニューアルオープンに向けた諸準備のほか、サービス向上や利用者の確保に努める。

3 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

埼玉会館は多目的ホールであるため、芸術文化活動以外の多様な活動の場としても施設の提供を行っていく。

また、駐車場の管理や自動販売機の設置、関連グッズの販売等により施設利用者へのサービスの向上に努めるとともに、芸術文化に係る事業の推進を図る。

(1) 各種の活動及び発表の場の提供

埼玉会館においては、リニューアルオープンとなる平成29年度以降も引き続き芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行うため、施設利用受付など諸準備を行う。

(2) 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営する。

(3) その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料

販売業者と契約し、自動販売機を設置する。また、関連グッズを販売するとともに、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について対応する。

(4) 埼玉会館のブランディング事業

休館中も、全国に誇れる価値をもつ「埼玉会館の歴史と建物」を発信するため、ブランディング事業を継続する。これにより、建築文化や埼玉会館への関心を醸成し、芸術文化や施設利用を推進するための一助とする。